

「炉端の会」のひとり言-1

◇「炉端の会」、活動再開の様子を会員から寄せて頂きました。

10月1日より「炉端の会」の活動が半年ぶりに再開しましたが、新型コロナへの対応体制(主な対応事項●印)となりました。

●活動開始はラッシュ時間を避けるために30分遅らせ10時スタートとする。
(終了は14時30分)



●各棟で焚く薪は、園内にある薪置き場からではなく原家前にある薪割り場から持ってゆく。

●活動棟は、囲炉裏を焚く火焚き棟と来園者に家の中に上がって家を見て頂く床上公開棟に分け、会員と来園者の接触の機会を極力減らす。



この様な中で、半年ぶりに囲炉裏での火焚きを行いました。

湿気が多い鈴木家では灰を乾かす為に天地返しをしましたが、湿気で灰が固まってしまい、大きな塊となっていました。



(鈴木家、灰の塊を横に火焚きを実施)

■水曜班： コロナ禍でも柿の実が色づいてき、金木犀の花が咲き、季節はゆっくり行くようです。



■金曜班： 初日の活動開始時に“エイエイオー”と氣勢を上げ、終了時には集合写真を撮って活動を終わりました



「炉端の会」のひとり言-2



炉端の会
2020.11

■火曜班： 10月6日から活動を再開しました。

曜日班に関係なく有志参加とのことでしたが朝のミーティング時はすべて火曜班のメンバー9名でした。3名ずつ3班に分けて3棟火を焚き、火焚きなしの床上公開棟には各班から交代で1名ずつ設定した1棟に1時間程度のスパンで待機しました。天気にも恵まれて来園客も多く、また幼稚園と中学校の団体見学があり午前中は忙しく過ごしました。



余談ですが火曜班メンバーで環境チームの2名が遅れて参加し6月2日に植えた蒟蒻が9月の猛暑で枯れてしまったと嘆いておりました。8月までは勢いよく成長していたのですが6日確認したところ無残な状態になっておりました。



(8月22日の蒟蒻畑)



(10月6日の蒟蒻畑)

■木曜班： 10月1日から活動を再開しました。

十月一日、待ちに待った囲炉裏焚きが可能になり、木曜班の有志14名、火曜班・金曜班から各々1名の方々が、参加されました。囲炉裏焚きと、公開棟が本日やっと始まりました。

一番乗りをされたのは、炉端の会第一期のNさん(87歳)でした。お元気そうで嬉しく思いました。久しぶりの屋根から昇る煙に、一様にほっとした仲間でした。



(火焚きの様子)



(炉端の会第一期のNさん)



(ビジターセンター2階)